

Bチャレ 新たなつながり部門 実績報告書

団体名	KASA KOVALEVA AND SATO ARCHITECTS	作成日	11月2日
事業名	小石川植物祭		
協働団体	<p>共同主催者：東京大学大学院理学系研究科附属植物園（小石川植物園）</p> <p>協賛：共同印刷株式会社、株式会社太田胃散、茗荷谷界限プロジェクト</p> <p>運営チーム：株式会社HERBiS、Arki Co.Ltd.、めぐるデザイン等</p> <p>出展者：区内活動者を中心とした、作家やお店</p> <p>担当課：文京区区民部区民課</p>		
自団体及び協働団体の役割分担	<p>自団体：当事業の窓口として、企画・運営・デザインを担当。</p> <p>小石川植物園：場所や学術的知識、資料の提供を担当。</p> <p>協賛企業：助成金では賄えない部分に対して金銭的支援を担当。</p> <p>運営チーム：自団体の活動をサポート。</p> <p>出展者：各々の専門性を活かし、植物の学びを来園者に伝えた。</p> <p>区民課：地域との連携を深めるために町会・自治会と自団体を繋げた。</p>		
提案背景・目的	<p>提案背景：</p> <p>小石川・白山では地域行事が減少していたり、地区内の繋がりはあるが各地区をまたいだ繋がりは少ないなどの地域課題がある。自団体が街のキュレーターとなり新しい視点から街の魅力を発見し作っていき、それを街の人々と共有していきたい。</p> <p>目的：</p> <p>古くからこの地にあり続け街にとっても貴重な存在である小石川植物園を、地元の人々が活用できるようにし、活動を継続することで自然との共生や街のあり方について人々が学び続ける状況を作る。活動を通じて新たな繋がりを生み、地域を活性化させていくことを目的とする。</p>		
事業内容	<p>1：企画・創作（2022年4月から10月）</p> <p>計15回ほどの採取会を行い、植物園の職員と出展者が集い、季節ごとの植物を採取し、学びや活用方法について議論する機会をつくった。各採取会からの学びをもとに出展者が製品や体験型イベントの企画を行った。</p> <p>2：小石川植物祭開催（2022年10月21日,22日,23日）</p> <p>各出展者が植物園内にブースを持ち、それぞれが企画した製品やイベントを来園者に披露した。</p>		
協働団体 or 利用者の声	<p>協働団体である小石川植物園からは、これまでとは異なる植物の見方を知ったり、来園者の意見が直接届いたり、新たな発見があったとのこと。来園者からは、街の中心にある植物園について知るきっかけになった、またぜひ開催してほしいなどの前向きな感想を多数もらっている。</p>		

協働による効果	大学の施設である植物園、ボランティアや出展者として区民、協賛として地元企業と様々な人や団体が協働することで、垣根を超えて人々が繋がる環境をつくることができた。今後はこの環境を維持、発展させていくことでよりお互いや街への理解、愛着が深まっていくのではないかと考える。
成果目標の達成度	<p>1：人数 3日間の合計来場者数の目標である2000人を大きく上回る約9200人となった。また出展者は目標数10団体に対して17団体となった。推薦だけでなく公募枠を設けたことで、数を増やすだけでなく関係性を広げることができた。</p> <p>2. 頻度・変化： 植物祭に参加した出展者、運営メンバー、植物園が仲間意識をもち、これまではなかった地域や業種を跨いだ新たな人の繋がりを生み出した。植物園と一部の出展者の間では、園内植物の今後の活用方法などについても話が進んでおり、今回のイベントで終わりではなく今後ますます街へと開かれた植物園になっていくことが期待できる。</p>
今後の活動予定	来園者、関係者へのアンケートでは次年度へと開催を継続していくことへの前向きな意見が多く、さっそく次回へ向けた準備を予定している。ただ、体制づくりやスケジュール、財政面など課題が浮彫になったため、関係者で議論しながらブラッシュアップし次を迎えられればと考えている。

別紙1：事業スケジュール(報告版)

別紙2：収支報告書

別紙3：関係者マップ

※追加別添1：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ

※追加別添2：この事業の様子が分かる公開可能な写真データ（10枚以内）

別紙1：事業スケジュール(報告版)

団体名：KASA / KOVALEVA AND SATO ARCHITECTS

実施内容 / 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1.出展者探し	3-4月：推薦枠の出展者を確定。		6月-8月：公募により出展者を募った。				
2.関係者初回打ち合わせ（顔合わせ会）	2月末：第1回集会を開催						
3.散策会	4月：第1回散策会を開催			8月：公募出展者を主対象に第2回散策会を開催			
4.出展者と自団体の個別打ち合わせ	5月-9月中旬：メールや対面での打ち合わせを複数回行った。						
5.植物園での採取会	5月中旬から10月初旬までに計15回ほどの採取会を行った。						
6.直前の関係者打ち合わせ（決起集会）						10月：第2回集会を開催	
7.植物祭開催						10月21日、22日、23日の3日間	
フミコム/区民課との定例会議	月に1回のペースで打ち合わせをし、その他にもメールや電話で連絡を取り合った。						

* 列の数・行の幅は必要に応じて変更してご記入下さい

別紙2：収支報告書

団体名：KASA / KOVALEVA AND SATO ARCHITECTS

収入 1,473,000 円

費目	予算額	積算根拠
「Bチャレ」助成金	873,000 円	今年度のBチャレで支給された助成金全額。
協賛金	600,000 円	共同印刷株式会社50万円、株式会社太田胃散10万円の合計額。
	円	

支出 1,473,000 円

費目	予算額	積算根拠
会場構成レンタル費	277,035 円	仮設テントレンタル253,550円、スツールレンタル23,485円の合計額。
会場構成製作費	239,118 円	制作什器の材料費135,028円、会場装飾費104,090円の合計額。
備品購入費	73,200 円	リストバンド50,000円、関係者パス10,753円、その他備品の合計額。
ボランティア備品購入費	28,500 円	説明会会場費3,200円、ペットボトルお茶代23,904円、当日諸経費1,396円の合計額。
その他諸経費	26,300 円	問合せ用電話1,000円、ウェブサイト立ち上げ・維持費25,300円の合計額。
パンフレット・フライヤー制作費	139,870 円	フライヤー11,870円、当日パンフレット83,000円、当日配布の学びマップ45,000円の合計額。
運営メンバー人件費	600,000 円	約10名の運営メンバーへ、それぞれの業務量に応じて配分。
フリーペーパー製作費	88,977 円	植物祭イベントの内容を振り返る発行物。後日制作。

別紙3：関係者マップ(報告版)

作成日：令和4年11月2日

